令和6年度第4回国分寺市障害者施策推進協議会

日 時：令和7年2月14日（金）午後6時00分～午後7時30分
場 所：cocobunji プラザ リオンホール

【委員】（敬称略）

大塚 晃（会長）（識見を有する者）
小堀 幸恵（副会長）（市内の地域活動支援センターの代表者）
阿部 陽一郎（市内の障害者団体の代表者）
大谷 祐人（市内に住む障害者又は市内に住む障害者若しくは障害児の家族）
松本 晴久（市内に住む障害者又は市内に住む障害者若しくは障害児の家族）
境 和雄（障害者等の就労支援を行う市内の関係機関の代表者）
加世田 和明（特別支援学校の教員）
天野 徹（民生委員の代表者）
増田 径子（識見を有する者）

司会・進行：大塚 晃（会長）

【事務局】

福祉部 障害福祉課長（宮外）
子ども家庭部 子ども発達支援担当課長（前田）
教育部 学校教育担当課長（關）
福祉部 障害福祉課計画係長（伊藤）
福祉部 障害福祉課生活支援係長（小池）
福祉部 障害福祉課相談支援係長（齊藤）
福祉部 障害福祉課事業推進係長（千田）
福祉部 障害福祉課計画係員（吉岡）

【当日欠席】

福祉部長（玉井）

【次第】

- 1 開会
- 2 報告事項
 - 1) 障害福祉に関するアンケート調査について
- 3 閉会

【資料一覧】

◆事前配付

- 【資料1】 国分寺市障害福祉に関するアンケート調査（案）（18歳以上の方）
- 【資料2】 国分寺市障害福祉に関するアンケート調査（案）（18歳未満の方）
- 【資料3】 第5次国分寺市障害者計画等策定スケジュール（案）

◆当日配布

- ・席次表
- ・国分寺市障害者施策推進協議会ペーパーレスの可否について
- ・令和6年度第2回発達障害者支援関係機関情報交換会「発達障害者の働きやすい環境づくり」のチラシ

【開会】

大塚会長： 皆さんこんばんは。令和6年度第4回国分寺市障害者施策推進協議会、どうぞよろしくお願いいたします。それでは会議成立の確認及び配布資料等の確認について事務局より説明をお願いいたします。

事務局： それでは開会にあたりまして、会議の成立を確認させていただきます。本協議会設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議につきましては、委員9名のうちの過半数の出席をもって成立いたします。現時点で8名の委員にご出席いただいておりますので、会議成立となります。なお、福祉部長については、公務につき遅れての参加と確認しております。続きまして、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りさせていただいた資料は、令和6年度第4回国分寺市障害者施策推進協議会次第、国分寺市障害福祉に関するアンケート調査（案）（18歳以上の方）、資料2 国分寺市障害福祉に関するアンケート調査（案）（18歳未満の方）、資料3 第5次国分寺市障害者計画策定スケジュール（案）です。それから本日机上に配布させていただいた資料は、席次表、国分寺市障害者施策推進協議会ペーパーレスの可否について、令和6年度第2回発達障害者支援関係機関情報交換会「発達障害者の働きやすい環境づくり」というチラシとなります。また参考資料として、現計画の冊子を机上配付しております。なお、計画の冊子は、本日の会議終了後、机の上に置いたままお帰りいただきますようお願いいたします。お配りした資料は以上でございます。すべてお手元でございますでしょうか。

では続きまして、協議会の進行上の注意点等について説明させていただきます。当協議会は、原則として、会議を公開、資料及び議事録も公開としており、皆様のご発言を正確に記録させていただくために、録音させていただきますので、ご了承ください。ご発言の際には挙手していただきまして、会長の指名がありましたら、私がマイクをお渡しいたしますので、初めにお名前を言っていただいてからご発言をしていただけますようお願いいたします。また、本協議会の事前送付資料についてのご相談ですが、これまで事務局にて資料を作成し、概ね1週間前を目途に資料を発送、事前に内容をご確認いただきまして、当日お持ち込みいただくという運用をしておりました。しかし、ペーパーレス化等を目的といたしまして、今後、eメールでの資料の送付、当日の会議資料も電子で行えればと考えております。つきましては、机上配布資料、国分寺市障害者施策推進協議会ペーパーレスの可否のそれぞれの項目をお読みいただきまして、可能なものに丸をつけ、会議終了後、机の上に置いてお帰りいただきますようお願いいたします。

事務局： 皆様こんばんは。本日はお集まりいただきましてどうもありがとうございます。本日の進行について先ほど説明があったところではございますが、もう1つ、皆様にご協力をお願いしたいと思います。報告事項等で我々事務局から少し長い説明をさせていただく場合がございます。ただ、説明については一旦最後まで聞いていただきまして、そのあと、ご意見をちょうだいする時間とさせていただきます。挙手にてご発言をお願いするという形をとらせていただきたく存じます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。こちらからの補足説明は以上でございます。

大塚会長： 皆様のお手元の次第に沿って進めていきたいと思っております。2 報告事項です。
1) 障害福祉に関するアンケート調査について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： 報告事項の1についてご説明させていただきます。現在の障害者計画の計画期間につきましては、令和3年度から8年度まで、それに付随する障害者計画の実施計画（後期）と、障害者総合支援法に基づく障害福祉計画及び児童福祉法に基づく障害児福祉計画の3計画につきましては、令和6年度から令和8年度までを計画期間としており、令和9年度からは新しい計画となります。この4つの計画を策定するにあたりまして、障害のある方のニーズがどこにあるのか、どういう障害福祉サービスが必要で、どのようなことがお困りになっているかなどを把握するため、来年度にアンケート調査の実施を予定しております。アンケート調査の案につきまして

は、資料1の18歳以上の方向けのアンケート調査票(案)と、資料2の18歳未満の方向けの調査票(案)に分けて調査票を作成しており、この2種類でアンケート調査を実施予定でございます。それでは資料1の18歳以上の方向けアンケート調査票をお手元にご準備ください。1ページの表紙になりますが、こちらは挨拶文と、記載要領を記載しております。また今回のアンケートから郵送だけではなく、インターネットでも回答できるよう準備する予定であり、1ページ目にその旨を反映しています。2ページから設問が始まりまして、まず1 基本情報と、2 障害の状況についての項目では、対象者の年齢、居住地域、障害種別、等級、その他障害のある方の基本的な事項についての質問を設定しております。4ページからの3 介助の状況については、世帯の支援体制を把握するために設定している項目となっております。6ページからの4 福祉サービスについて、次の5 その他サービスについての項目につきましては、主に障害福祉サービスなどの利用状況、公募の利用意向を満足度などについて把握するための質問を設定しております。15ページからの6 住まいの場について、また、7 日中活動の場就労について、次の8 外出についての項目につきましては、現在お住まいの状況や将来希望する暮らし、日中の活動や就労等の状況、外出の状況などについて把握するための質問となっております。22ページからの9 災害への備えについて、その次の10 相談や福祉の情報について、次の11 ヘルプマークとヘルプカードについて、12 障害を理由とする差別についての項目につきましては、災害発生時の備えや福祉サービスの情報の入手経路の把握、ヘルプマークやヘルプカードの利用状況、障害者差別解消法関連などの状況を把握するための質問を設定しております。27ページからの13 余暇活動について、またその次の14 成年後見制度について、15 全体的な施策についての項目につきましては、障害がある方の文化芸術活動、スポーツの実施状況や、必要な支援、成年後見制度利用意向などを把握する質問を設定しており、32ページの16 自由意見では、自由意見を記載いただく項目を設定しております。

続きまして18歳未満向けのアンケート調査票(案)についてとなります。こちらは資料2となります。18歳未満向けの調査票のみで、設問を設定している項目といたしましては、14ページからの6 教育保育について及び15ページ、7 将来についてとなっております。こちら通園通学に関することや、将来の希望などについての質問を設定しております。本日お配りしている資料、調査票(案)につきましても、令和4年度に実施したアンケート調査と同じ内容の設問でお配りしております。ちなみに、前回のアンケート調査票の集計結果になりますが、こちら国分寺市で援護を実施している、身体障害、知的障害、精神疾患、難病等の方を調査対象といたしまして、標本数としては、18歳以上の方は2,650人、18歳未満の方は350人を無作為抽出し、調査票を送付させていただきました。調査票の回答回収は郵送にて、調査期間といたしましては、令和4年8月下旬から9月下旬の約1ヶ月間で実施いたしました。最終的な回収率については、18歳以上の方が44.7%、18歳未満の方が49.7%、全体での回収率といたしましては、45.3%でございました。様々な情報を得られた反面、国分寺市のアンケートの設問数が多く、回答が大変であったというご意見もございました。また、多摩地域の自治体における同様の障害施策に関するアンケートの実施状況を確認したところ、国分寺市同様に障害のある人を対象に調査を行った自治体が14自治体確認できました。そのうち設問数が、国分寺市同様50問以上の自治体が、立川市、昭島市、国分寺市、小金井市の4市で、4市の回答率の平均が43.1%。設問数が40問~49問の自治体が8市確認できまして、8市の平均回答率、配当率の平均が49%でございます。設問数が39以下の自治体に関しましては2市ありまして、2市の回答率平均が50.6%であったようです。設問数は少ないほど負担が減るため、回答いただきやすく、また紙調査の場合は、持ったときの重さで回答を敬遠されるという傾向もあるようでございます。アンケート調査につきましても、経年変化のモニタリングも踏まえ、前回と同様の設問とするか、または回答の負担軽減として設問を削るか、その他昨今の情勢も踏まえ、このように変えたほうがわかりやすいのではないかとというようなご意見もぜひ

いただければと思っております。

本日の協議会の後においても、資料内容をご確認いただきまして、概ね今月中にメールをいただければ、次回の協議会には皆様からいただいたご意見の概要と、それを踏まえたアンケート調査票（案）を改めてお示ししたいと思っております。

今後の計画の策定に係るスケジュールについてご説明させていただきます。資料3となります。次回の令和7年度第1回施策推進協議会は6月26日を予定しております。その際に、皆様よりいただいたアンケート調査に関するご意見の概要と、それを踏まえたアンケート調査票の案をお示しする予定です。その後9月下旬～10月中旬ぐらいにかけてアンケート調査を実施できればと考えており、2月の施策推進協議会で、アンケート結果の詳細をご報告できればと思っております。また、1月から3月ぐらいにかけては、現在の計画で関わっている関係課へのヒアリングや、関係団体へのヒアリングを実施させていただきます。来年度につきましては、計画策定に先立ち、アンケートや、関係者の皆様へのヒアリングを通じた実態調査、計画骨子のベースとなる情報を収集する期間とすることを予定しております。令和8年度につきましては、5月の第1回で関係団体ヒアリング等の結果のご報告、アンケートだったり関係団体のヒアリングを踏まえた次期計画期間の施策推進にあたっての課題整理であったり、計画の骨子案などもお示しできればと考えているところでございます。令和8年度の第2回及び3回で、原案の検討を施策推進協議会で行っていただきまして、10月の第4回で計画原案について、答申をお願いしたいところでございます。

この後いただくご意見につきましては、資料1資料2のページ番号と設問番号などをおっしゃってからご意見・ご質問等いただけると幸いです。事務局からは以上です。

大塚会長： はい、ありがとうございます。それではただいまの説明、アンケート調査内容について、ご意見をお伺いしたいと思います。はい。大谷委員。

大谷委員： アンケートをして何を調べたいのですか。委員に内容を見てもらってどうするのですか。自分たちで主体的責任を持って結果だけ報告すればいいと思うのですが。

事務局： 先ほど冒頭でもお伝えさせていただいたところなのですが、障害のある方のニーズがどこにあるか、どういう障害福祉サービスが必要で、どのようなことにお困りになっているかなどを把握し、次期計画に施策として反映するためのベースの声を確認することが目的でございます。

大塚会長： はい。大谷委員。

大谷委員： 以前A評価とかB評価とかC評価とかあったと思うのですが、あれはアンケートとは違うんですか。あの調査があるんだったら、このアンケートとはどういう違いがあつて行うのですか。

事務局： まずアンケートの目的につきましては、今日も机上に配付させていただいているのですが、この青い冊子が現在の計画でございます。これの次の計画を作成するにあたってのアンケートを実施したいというのが、今回の報告事項になっております。大谷委員がおっしゃっていた評価に関しましては、前計画の評価に関することになります。次回の協議会でも、現計画において重点事業を行っている関係課の事業評価等を踏まえ、こちらの協議会の委員の皆様へ施策評価票を基に評価していただくという流れとなります。

大谷委員： 全く意味がわかりません。

大塚会長： 障害者計画あるいは、障害福祉計画は、それぞれの分野やその内容についての計画を作るわけですが、しかし、この計画を作るために、どんなふうに関係する人は家族が困っているか、生活のニーズやサービスについての要望を把握して計画を作るということですので、計画を作る前提の本人やご家族のニーズを把握することが今回のアンケートと考えております。

大谷委員： 会長は調査とアンケートの違いが明確に答えられますか。アンケートはこれですよね。調査っていうのはA評価B評価C評価のことを僕は指しているのです

が、その違いは述べられますか。

大塚会長： AとかBとかCというのは調査ではなくてそれは評価です。

大谷委員： 調査ではなくて評価として言い直しますが、そのアンケートと評価の違いを教えてください。

大塚会長： アンケート調査というのはそれぞれのニーズについてお聞きするということで、それぞれの項目について、善し悪しを評価するものではないと思っております。

大谷委員： ではアンケート調査で行われた文面や記載というのはこういった形で公表されるんですか。

大塚会長： 公表については事務局よりお願いいたします。

事務局： アンケート調査結果をどのように公表していくかというご質問だと捉えてございます。少し先ほどと繰り返しになるかもしれませんが、予定といたしましては、今年の夏終わりから秋口ぐらいにかけて、アンケート調査を実施いたします。その結果については、この施策推進協議会の第4回のときに、集計結果としてお出しできるかと思えます。併せて、市民の皆様への報告としては、その後に行われます、令和8年の2月から3月に実施をする議会の中でも報告をさせていただくという運びになっていくかと思えます。あとはアンケートの結果の公表といたしましては、ホームページなどの公表というところも考えてございます。以上でございます。

大塚会長： 他にはご意見ありますでしょうか。大谷委員どうぞ。

大谷委員： 今日委員の方々に聞きたいことはこのアンケートに何か追加する記載が欲しいとか、意見が欲しいという内容なのでしょうか。

大塚会長： どうぞ。事務局お願いします。

事務局： ご質問ありがとうございます。本日皆様をお願いしたいことといたしますのは、我々はまだ、前回使いましたアンケート調査の帳票を参考に皆さんにご覧いただくようにお手元にお配り差し上げました。やはり、ここ1、2年ぐらいは、新しい計画を策定していくことと、現行ある計画の評価を皆さんに実施してきていただいていたわけですが、その中で皆さんからいただいたご意見が大きな課題になっている事項かと思えますので、そのあたりを、きちんとアンケートの中でどこまで聞いていったらいいだろうか。ですとか、現行ではこんなことにみんな困っているから、ここにはないけれども、これを追加した方がいいんじゃないかとかあとは先ほど事務局も申し上げましたが、こんなボリュームのあるものと答えられないから、もう少し少なくしたほうがいいのかとか、細かい説明文のところは、そこまでは構いませんので、アンケートを実施していくにあたって、大枠どんなことが今回は盛り込まれるとよさそうであるかというのを、皆さんからご意見いただけるとありがたいというふうに思っております。

大塚会長： そういう観点から、いかがでしょう。はい。天野委員どうぞ。

天野委員： 1つあるのですが、前回僕は、調査結果のところから参加しています。そのときにちょっと思ったのですが、このアンケートを見ると、こういうところが問題だ、ですとか、こういうところに課題があるとかを一生懸命聞いているのです。それはそれで非常に重要なことで、どこか欠けていることとか市民の方が不安に思っていることを知り、それに対する施策を変えるというのは非常に重要なことだと思いますが、それでは半分しかやってないような気がしているのです。何をいいと思ったかというのをやはり聞く必要があるのではないかと思います。確かに悪いところを直すのも立派な施策ですが、いいところを出すっていうのも立派な施策だと思うのです。この3年間の間で、重層化もしてきましたし、色々なことをやってきたと思うのです。そのようなことで少しは努力しているわけですから、その成果が、どこにも出てこなくて、ここだけはまだ悪く残ってますだけっていうのは、少々寂しい気がします。ただそうは言っても、ボリュームもあるし、今までのアンケートとの整合性もあるでしょうから、また新しい項目をつけ足してっていうのも大変なことなので、そうしようとは思いませんけど、せめて

最後の自由意見のところは、困っていること、改善して欲しいことと書いてあるので、ここ2、3年の間でよくなったと感じておられることとか、こんなことがあってそれはとてもよかったとか、書いてもらうようにしたらどうかと。そうしていただくと、我々もやりがいがあるのです。

大塚会長： はい。大切なご意見ありがとうございます。質問項目の中では、1、満足2、ほぼ満足、3、不満ということで、例えば、それぞれサービスについて満足していると、満足しているというのは、提供されているサービスについて、充実しているとか、自分はこれでいいと思っているという意見がどのくらいあって、そういうのを積極的に取り上げることによって、不満だけでなく、満足している良さ、なぜそのサービスで満足しているかということまで究明して、次の計画に生かす。そして最後のところについては、不満あるいは不十分なところだけでなく、国分寺市のサービスを受けてここがよかったとか、こういうところはもっと伸ばして欲しい、もっと積極的に取り組んで欲しいという国分寺市の強みを見つけていくということも大事です。はい。境委員どうぞ。

境委員： 何で無作為に選んで、ある一定のところまでの数値しかとらなかつたのかってということと、私委員を今年度からやっているのですが、なぜ全体数を把握しようとししないのか。全体数を把握するのがすごく大変なので、ある一定のところと決めているのだと思うのですが、回答率が44%ということなので、どうなのかなと。もう1つは、資料1の8ページの「就労継続支援A型」というのが14番にあるのですが、その「一般企業への就労に結びつかなかつた方で」というところを、うちの事業所は今度就労継続支援A型を取ろうと思って現在申請中なのですが、この書き方があることで、あえて劣等感を植え付けるみたいな書き方をしなくてもいいのではないかなと思うので、もう少し良い言い回しに変えられたらいいのではないかなと思いました。

大塚会長： はい。ありがとうございます。2点ありました。まず、調査対象です。そもそも、前からの調査のやり方もあるのでしょうかけれども、どのような経緯でこうなったのかということと、就労継続支援事業の表記の課題についてお願いします。

事務局： 境委員のおっしゃるところ非常によくわかります。サービスを利用する等して、我々と関わっていただいている障害者の方大勢いるのだから、その人達みんなに聞いてみればいいという発想がないのだろうかというご提言かと思います。やはり、行政の計画でございますので、限りある予算の中で策定をしていくという、ルールに則った上で、この取組を進めております。その中で、やはりこのぐらいの規模のアンケート調査をすると、大体実態像がつかめるだろうという指標がございまして、それに基づいて、3,000人の方たちにお送りして、回収をしたということでございます。回収率につきましても、4割は半分もいっていないじゃないかというお考えもあるかと思うのですが、この標本で4割であれば、ある程度実態像を掴めているだろうとされている数字がございまして、それに則り調査結果ということで、正式なものにとらえ、公表させていただいているという次第でございます。アンケートの背景については、何人何%とかというのは明確な数字を今日は持ってきてないので、はっきりお答えできないのですが、考え方としてはそのようなやり方で実証してきているというものがございまして、正しいアンケート結果として捉えているとは申しませんが、それでもやはり足りないところがあるというのは認識しておりまして、そのために、関係団体の皆様との計画を策定していくための懇談会、あとは関係の事業所の皆様にも少しお話を聞いていく機会というのを、来年末ぐらいまでかけて実施をしていく予定でございます。すべてではないのですが、その辺りでアンケート調査以外の情報もカバーしながら、実態としてとらえたものを計画に反映していきたいと考えてございます。あと、中身や言い回しのお話でございますが、我々もとても悩んでいるところがございます。その実態を正しく表現するために、書く側もポジティブに回答していくために、そのための言い回しについて、色々なところに書いてあるサービスのよくある説明を引用してきているのですが、本当にその言い回しで正しく聞けるの

だろうかというところは、今回考えていきたい視点でございます。我々も少し思っていたところ表出していただいたような感じでしたので、こんな感じの言い方がいいのではないかとこのところについては、我々も考えますが、アイデア等いただけますと幸いです。

大塚会長： はい。天野委員どうぞ。

天野委員： 言い回しの話ですが、情報として聞いていただければと思います。実は私、史跡のガイドをやっておりまして、昨日、そのガイドが集まって、わかりやすく説明するにはどうしたらいいかということで議論をしました。そこでAIを使ってみたのです。わかりやすい表現ぶりにしてちょうだいと言ったら、本当にわかりやすい表現の文章を作成してくれるのです。ですから、そういうことも含めて、考えてみてもいいかもしれないと今思いました。

大塚会長： ありがとうございます。先ほどの就労継続支援A型の「結びつかなかった」や、雇用契約に基づく就労が可能である方とか非常に限定的になっていて、法律の用語はこういうことではなかったですが、国の解説であるとかあるいは通知的なものに「結びつかなかった」とあったと思うのです。私これを書くときにむしろ一般就労を希望する人でと、自分で直した覚えがあるので多分国の解説とかそういうところのものを引用したのではないかと考えています。私はむしろ趣旨が変わらなければ直したほうがいいのではないかと。それによって誤解を与えたり、意味が変わったりしない限りは、ポジティブな言葉にしていってもいいのかなと個人的には思いますのでご判断ください。阿部委員どうぞ。

阿部委員： 福祉は結局個別対応なのですよね。福祉は決してマスではできないというふうに思っています。一人一人のニーズが異なるので、それを個別に対応しなければいけない。アンケートというやり方をすると大体、マスでとらえるっていう形になってくると思うのですが、その中でも、個人がどのように考えているのかというところが、なるべく出るようにするにはどうしたらいいのかなと考えています。私の所属する国分寺障害者連絡協議会ではというと、こういうアンケートよりも今は個別避難計画の策定を求めています。個別計画によって、どこにどのようなニーズのある人がいるかということ把握してそれをベースにやっていかなければ、具体的な施策というのは進んでいかないなと思っています。アンケートでそれがどこまで出るかというのは難しいところなのです。いいことを書いてくださいという意見もありましたけれども、一番重要だと思っているのは、困っていることや、ここがもう少し何とかならないかとか、ここに手を差し伸べていただきたいというところがどれだけ出てくるかということだと思っております。そうするとこの中で大切なのは、最後の31ページ。全体的な施策だと思っております。要するに、充実して欲しいことは何ですか。何に困っていますか。ここじゃないかと思っております。ここの設問の仕方も、次元の違うものをただ並べているので、これを3つに絞るとするのはすごく難しいことだなと思いました。制限しないと全部マルをつけちゃう人いるかもしれませんけど、もう少したくさん選んでもいいのではないかと思います。それから、もっと大事なのは最後の57問 自由意見のところ。大体56、57問も回答していると、もうくたびれて書けなくなっちゃうと思うのです。問56はかろうじて書いたとしても問57を書く元気がない。ここの部分はどちらかという最初じゃないかなと思います。要するに、障害区分など特性のところは必要ですが、そのあとにくるのは、あなたは何が困っていますか、何を望んでいますかという設問を設けるとするのが、一番重要な部分じゃないかなというふうに思います。多分、56問まで行くまでに、くたびれちゃうと思います。なかなかどれを残してどれを捨てていくというのは難しいです。ですが、文化活動や演劇で何がいいですかなどという質問はそもそも、いるのでしょうか。そのようなものは無くしてしまってもいいのかなと思います。それから、肝心なところのポイントが抜けているようなところがあるかなと思っています。例えば、問16の、入所施設に入っている人に何で入所施設にしたのですかと聞いている設問ですが、特に知的障害の場合、一番大きい理由は対応してくれるグループ

ホームが地域にないということです。家庭では見られなくなっていて、なおかつ地域に行動障害のある方や、重症心身障害の人も含めて見てくれる場所がない。

「住む場所がない」というのが、一番近いものかもしれませんが、この住む場所がないというのが、家では見きれないという問題なのか、地域に対応できるようなサービスがないということなのかは全て意見が異なります。このあたりすごく重要なところだと思うのですが、そこが何かさらっと住む場所がないというので終わらされていると、これ少し違うのではないかと思います。ほかに気が付いたのは、問47 相談しなかった理由は何ですかという設問です。必要性を感じない、相談先がわからないなどの答えがあります。今回の障害者計画実施計画の中で、市は相談支援専門員を6人増やす目標を立てて、望まないセルフプランはやめましょうということに取り組んでいる。ここで出てくるのは、相談先がわからないというよりも相談先がないということなのではないかと思うのです。だから本当に困っていることが出てくるような設問にしないと、ぼやっとしたものしか、おそらく出てこないのではないかと思います。なかなか質問を作るのは難しい作業です。あまり細かいこと言い始めると、これもこうだあれもこうだと言葉尻論になってしまいます。でもだいたいアンケートしなくても、こういうところはすごく困っているだろうなというところがあるわけですが、具体的な状況があまり見えてこないような設問になってしまっているところがいくつか見られると思っていますので、その辺が何とかできないかなと思います。もう1つは、分析の仕方をどのようにされるかということです。各障害の方々によってニーズがかなり違います。先ほど言ったグループホームの問題などは、肢体不自由の人からはあまり出てこないはずで、どちらかと言うと、居住支援の問題とかが出てくるだろうし、重症心身障害の方に対応できるグループホームの問題だと、知的とそれから精神の一部が大きいと思います。だけど、満遍なくやってしまう分析方法だと、例えば、視覚障害の人以外には特に重要でなくても、視覚障害の人については非常に切実で重要な問題がパーセントにするとすごく下がってしまいます。だからそこをしっかりとクロス分析をしていく必要があると思いますし、クロス分析ということを考えてみると、本当であれば、全員にアンケート調査を行って、これはプライバシーの問題があるので強制はできないと思いますが、差し支えがない人は名前記入していただくぐらいでもいいと思います。だって、どこにどのようなニーズがある人がいるのかということがわからなかったら、施策の推進をしようがないじゃないですか。漠然とこういう問題があるのかなぐらいのことを言っても、なかなか対応は進まないと思います。あんまり根本的なことを言ってしまうと困ってしまうかもしれませんが、やはり福祉は個別のニーズがベースになっているのだということを、最初に押さえておいた方がいいかなと思います。

大塚会長： ありがとうございます。個々にいろいろなご指摘もあったので、ご意見ということでよろしいですか。はい。それでは大谷委員どうぞ。

大谷委員： 先ほど、そのアンケート集計結果の40%何とかの「指標」を参考に作っていると仰っていたのですが、その「指標」とは何ですか。あと予算の問題とも仰いましたが、それなら、出だしから失敗しているということになりますよね。あとこれを事務局の方が懇談会と仰ったのですが、別に僕は懇談しにきているわけではないし、当事者が代表で来ているのだから、迷惑だなと思っていますけど。

大塚会長： 3つ質問がありました。はい。お願いします。

事務局： 最後のところからです。ここの場合は障害者施策推進協議会ですので、協議会のメンバーのそれぞれから選出いただいている方、もちろん立候補して出てきていただいた方もいらっしゃいますが、その方たちに、次期の計画策定について、ご意見を伺っていく場の1つでございます。もう1つ出た懇談会という場でございますけれども、これはここの協議会とは少し違った、別のものがございます。関係団体、例えば国障連をはじめとして、難病の会、身障協、親の会、あゆみ会とか、様々な団体活動をしている皆さんがいらっしゃいますので、こことは違う場で、それらの団体の皆さんにもお話を聞いていく場を設けるということでございます。

ます。まずこれが3番目にいただいた質問でございます。2つ目にアンケートの成り立ちの話がもう1回出たかなと思っています。繰り返しになりますが、標本抽出数、無作為抽出数、3,000人規模で大体40%ぐらいの回答率があるもの、指標としては、これは全国様々なところで実施をされているアンケート調査の中で、一応信用してもいいアンケートだろうというふうにしちんと根拠が示されているやり方でございます。市としてそれを、様々なアンケート調査で採用しているやり方でございます。その根拠の名前と言われると記憶しておりませんが、今申し上げられないのですが、そのような形というふうにご説明をさせていただきます。予算の制限の理由というところでございますが、それは先ほどのアンケート調査のやり方と関わってくるところでございます。信頼性のあるとされるやり方をするための予算が許されているという感じでございますので、本当は皆さんおっしゃるように、全員に聞いて、全員の方の答えを抽出するのがよろしいかと思いますが、ある一定の標本数でやらせていただくをえない事情がございます。失敗とはとらえてございませぬのでご理解いただきたいと思ひます。

大塚会長： 大谷委員どうぞ。

大谷委員： 懇談会は別の団体のことを指していると仰いましたが、それでも懇談会というのは失礼だと思います。もちろん、祭とかイベントとか、そういうイベントの催しだったらわかりますが、会議体に懇談という言葉を使うのはいかがなものかと思ひます。あと予算についてですが、ちょっと今の説明を受けてもわからなかつたです。

大塚会長： 懇談会の位置付けと、予算についての説明をもう一度事務局からお願いいたします。

事務局： 懇談会という言葉を使つてはございますけれども、中身としては、今までご説明差し上げている通り、次期の計画を策定していくために、皆さんからの困りごと、現状、そのあたりを聞かせていただくということが、目的でございます。懇談会という言葉を使つてはございますが、その単語ではなくて意図が正しく伝わるように、皆様にはご協力を求めていきたいと考えてございます。予算の件でございますが、計画を策定していくために、皆さんからのご意見を様々な形で聴取をしていく必要性については、市としても、どの計画を策定するときにも感じているところではございます。それをなるべく効果的に効率的な方法で進めていくということも、一方で求められているところでございます。そのために、先ほどからご説明させていただいている無作為抽出の手法を実施することになり、その方法であれば、市の予算を使つてやってもいいという認められ方がございませぬ。これ以上のところはちょっとお答えがしづらいなと思ひます。

大塚会長： はい。松本委員お願いいたします。

松本委員： 前回このアンケートのとき、私参加しており、今回と同様に調査対象は全員ではないのですかと質問しました。その時も、アンケートという位置付けから、妥当な結果を得るための割合という基準があると伺いました。私は、割合よりも100%アンケートが返ってくるのかどうか気がなりました。その時、何パーセントですかと確認したところ、40%という話が出て、そんなに少ないのかと感じました。今回、改めて他の地域での状況を確認して頂き、同等の結果だったとの報告を頂きありがとうございます。前回のとき、もしかしたら書くのが面倒くさいので書かないのではないかと思ひ、もしできる方がいれば、インターネットなどの方が気軽に対応してくれるのではないかと話しました。それについて今回、対応して頂きありがとうございます。それ以外に、このアンケートに答えたら、自分にとってどのようなメリットになるかと回答者は考えると思ひます。なので、案内文の最後の部分に、アンケートの結果は、どこの場で報告・反映しますという文言を入れて頂ければと思ひます。例えば、議会の中で議論されていて、どのような議論が出たとか、ホームページにアンケート結果が出るという説明でしたが、ここに公表しますから、見てくださいというような情報を入れれば良いと思ひます。自分たちの意見が、何かを変えるアウトプットになると感じたら、回答

に答えてくれる人も増えるかもしれません。先ほどご説明いただいたお金の関係も、紙とかで実施するとお金もかかると思いますが、インターネットで実施できる人がいれば、お金もかからないかもしれないと思います。そうすれば対象者を増やしたりするとかできるかもしれません。また先ほど言ったように、要望のある方もおられるかもしれないからアンケートを答えるときに、問題のない人は名前を書いてくださいと言っておいた方が良いと思います。最後のページの自由意見のところに要望が書かれていた場合、市の方でも対応しやすいと感じます。

大塚会長： ありがとうございます。回答数を上げるために、いろいろ工夫があるかと思います。最後のところに、このアンケート結果をどのように発表するかということも付記して、見える化していくことは大切だと思いますので、よろしく願います。加世田委員、ご意見よろしいですか。

加世田委員： ないです。

大塚会長： 大谷委員

大谷委員： 懇談会ではなくて議題会ではないですか。

大塚会長： 事務局お願いします。

事務局： 名称のつけ方、ご提案をいただいているところかと思しますので、ご提案として受けとめさせていただきたいと思えます。

大塚会長： 阿部委員どうぞ。

阿部委員： 難しいかもしれませんが、アンケートの回答希望者は記名にした方がいいのではないかと思います。全数調査でないと、そもそもアンケートが届かなかった人はチャンスがないじゃないかという話になるところが問題なのですが、例えば要望が書かれていても、事務局が読んで何を言っているのかよくわからない場合もあると思います。しかし記名がなければ「これはどういうことですか」と問い合わせをすることはできないと思えますし、本当に切実な問題が出てくるとしたらアンケートで処理する問題ではないです。3,000人調査を行ったら、アウトリーチが必要な内容が入ってくると思えます。本当に困っている、何とかしてくれと思っている人は名前を書いていただいてもいいのではないかと思います。アンケートは、アウトリーチをしていくための1つのきっかけだと思っています。そうすると、今のやり方は少し物足りないと感じます。抜本的に全部変えるわけにはいかないのしょうけれども。特に切実な内容や、非常に緊急的に困っていることがある人に対しては、お名前を書いていただくような形でいいのではないかと思います。もちろん強制はできませんが、そこを少しご検討いただけないかなと思えます。

大塚会長： 検討でよろしいですか。ありがとうございます。増田委員。どうぞ。

増田委員： 問55、30ページの成年後見制度についてなのですが、よく私が聞かれることが、利用の仕方がわからない、報酬がいくらになるかわからない、後見人に何をしてもらうかわからない、こういったことをよく聞かれます。なので、その理由は何ですかのところに、これは言葉の使い方の問題だと思うのですが、わかりやすい感じで、答えやすいような形で、マルをつけられるような形にさせていただいたらと思います。

大塚会長： 具体的にありがとうございます。問55は、言葉固いですね。もっとシンプルな言葉にしたほうがいいかもしれないです。ありがとうございます。他にはいかがですか。もし今回は意見がなくとも、団体に推し量る方もいらっしゃるかもしれないので意見の受付期間についてもう一度説明をお願いいたします。

事務局： アンケート調査に関してのご意見ご要望等につきましては、今月中を目途に事務局にメール等いただければ、次回の協議会にご意見の概要とそれを踏まえたアンケート調査票（案）をお示しいたしたいと思えます。また、アンケート（案）は再度協議会にお示ししてからのアンケート実施となりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。今後の計画策定のスケジュールですが、関係団体へのヒアリングにつきましては、令和7年度の2月から3月ぐらいにかけて行っていく予定でございます。こちらについてもまた協議会の中でこういった形で行っ

ていくとかというのは、事前にご説明させていただく予定でございます。あとは別途、関係課ヒアリングということで、現計画は様々な課が関係しております。以前、協議会の場でもご意見といたしまして、重点目標が非常に多いという声もあり、この重点目標の整理といったところの所も見据えていきたいと思っております。そのため、次期計画に関しては、例えばですけど現行計画でなかなか達成できていないことであつたり、国の方針で上位にあるけれども具体化できてないようなことだつたりとか、重点的に、この何年かでやっていくんだということを反映していきたいと考えておりますので、その辺も踏まえて、関係課への現計画のことでのヒアリングというの、令和7年度に予定しているところでございます。令和8年度は具体的な計画の骨子や原案を協議会にもお示しし、具体的に計画の中身についてご議論いただければと考えているところでございます。

大塚会長： ありがとうございます。今日いただいた意見等を踏まえて、令和7年度の第1回の施策推進協議会でここが変更になりましたということ議論するということによろしいですか。

事務局： アンケートについてはもう一回議論できるチャンスがございます。

大塚会長： そういうことですので、来年度に入って第1回目にもう一度見ていただいて、決定というプロセスということになりますので、よろしく願います。また意見があるということであれば、メール等でお送りいただきたいと思えます。それでは全体として何かご意見はございますか。年度の最後の協議会ですけど、なにかご要望や、ご指摘ございませんか。よろしいですか。では、事務局より今後の予定等について、説明をお願いいたします。

事務局： 今後の開催予定についてご案内させていただきます。次回協議会は、令和7年6月26日（木）市役所新庁舎の201会議室での開催を予定しております。

事務局： 本日机上配付させていただきました令和6年度第2回発達障害者支援関係機関情報交換会のことについて、情報提供していただければ、ぜひ願います。

小塚委員： お時間いただきありがとうございます地域活動支援センターつばさの小塚です。2月22日（土）、来週の土曜日になりますけれども、発達障害者支援関係機関情報交換会を行わせていただきます。今回は当事者の方にご登壇いただきまして、発達障害のある方も働きやすい環境づくりということ、当事者のお声から、皆さんで考えて、学ばせていただくという、学びながらいい環境づくりということと一緒に考えるという会になっています。締め切りが2月14日（金）で、本日になってはいますが、まだ席に余裕がありますので、今回会場のみになりますので、お越しいただける方いらっしゃいましたら、ぜひご参加いただくと幸いです。よろしく願います。ありがとうございました。

大塚会長： どうもありがとうございました。このアンケートを仕上げるということが大切だというふうに思っておりますので、来年もよろしく願います。ではこれで施策推進協議会、終わりにしたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。ご苦労様でした。

—了—